

# 美しい 県土づくりNEWS

知恵と工夫

2005 年

Feb 2

岩手県県土整備部手づくり広報誌

美しい県土づくり NEWS 7号

平成 17 年 2 月 1 日発行

編集 県土整備企画室

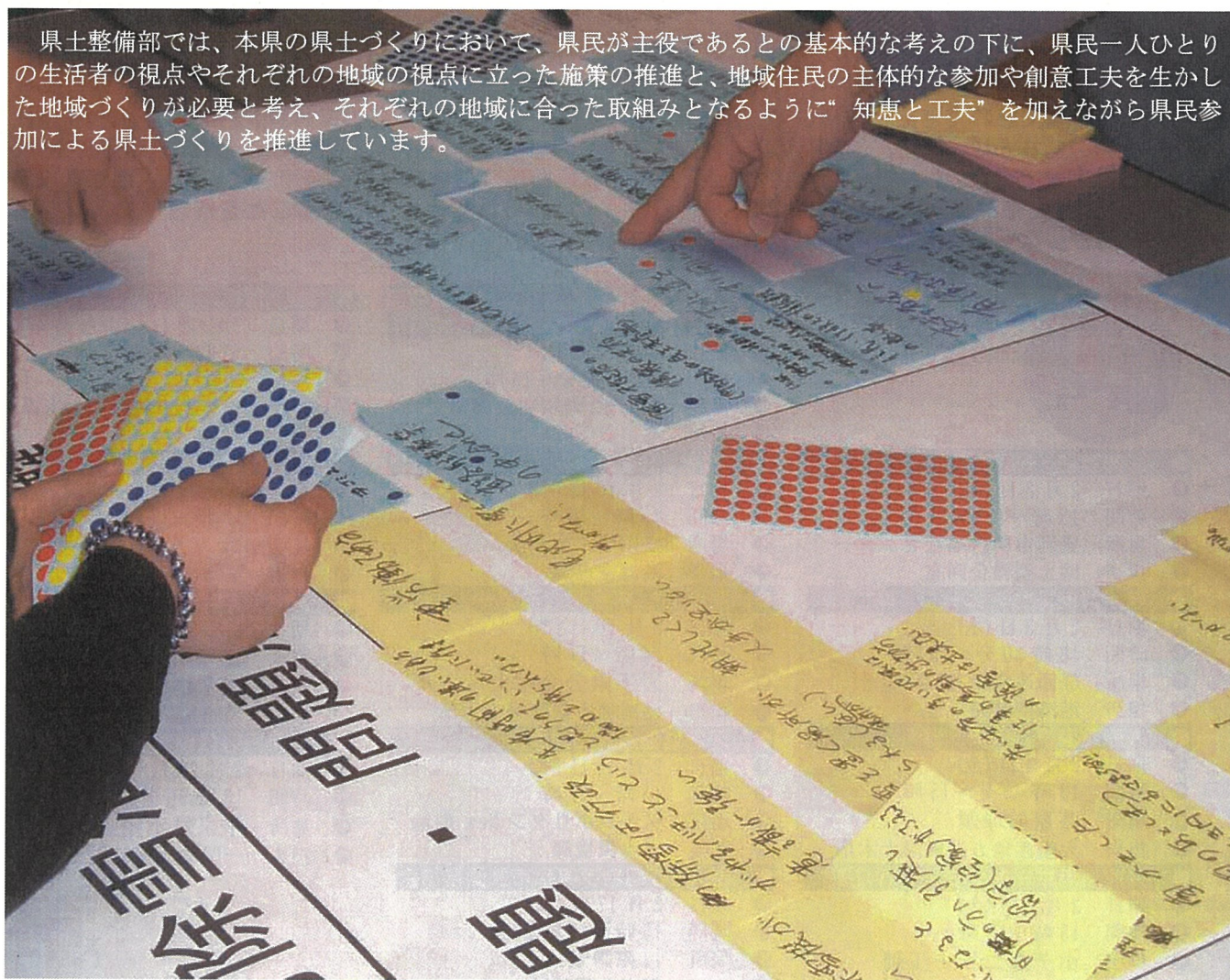
Page

## CONTENTS

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 2  | ● 今月の人 平井都市計画課総括課長                   |
| 3  | ● 県民参加・NPO 等協働通信                     |
| 3  | 市民に愛される大堰川の河川空間                      |
| 5  | 福岡地区歩行者安全対策検討会ほか                     |
| 8  | ● 東北自動車道の社会実験                        |
| 10 | ● 地域の安全安心促進基本計画(津波)<br>策定～田老町での取り組み～ |
| 12 | ● 美しい地域づくりを目指して                      |
| 14 | ● 知恵と工夫                              |
| 15 | ● 県道開通情報                             |
| 17 | ● 県土整備 TOPICS                        |
| 18 | ● インフォメーション                          |
| 19 | ● みんなの声                              |

## 県民協働による地域づくりを目指して！

県土整備部では、本県の県土づくりにおいて、県民が主役であるとの基本的な考えの下に、県民一人ひとりの生活者の視点やそれぞれの地域の視点に立った施策の推進と、地域住民の主体的な参加や創意工夫を生かした地域づくりが必要と考え、それぞれの地域に合った取組みとなるように“知恵と工夫”を加えながら県民参加による県土づくりを推進しています。



## 今月の人

“これから！”

都市計画課総括課長  
平井 公康



今、自分が退職まで、片手で足りる年になり、これからの若い人たちがこれからどのようなようになるのだろうかということが非常に気になっています。

私達が県職員になった昭和40年代後半は、県内道路網などの社会資本整備が急務であり、土木部の職員は日夜、県内の道路整備に全力を尽くしており、まず整備を進めることが優先され、整備を進めること以外はあまり考えたことが無かったように記憶しています。職場の実態としては、良い意味の徒弟制度で、上司、先輩の存在は非常に大きく、いずれあのようにになりたいという目標のもと昼は現場、夜は設計書づくりと忙しい毎日を過ごしていました。また、毎年仕事から得られる達成感は大きかったと今でも思っています。

私達世代は、このように社会資本整備に対する強い風と上司や先輩、そして土木一家という組織に守られ大事に育てられてきたと実感しています。

今の若い皆さんは、現在、そのような環境にはないことは事実であり、土木が経験工学ということを踏まえた場合、様々な経験を組織や上司から継承される機会が少なくなってきており大変残念だと感

じております。また、公務員に対するニーズというか要求も、道路や河川などの整備を行うだけでなく、管理や住民との協働、環境への配慮、説明責任、透明性など多種多様になってきていますし、住民の行政に対する見方も変わってきております。

今、情報公開や透明性などを背景に、何かあれば個々の職員が責任を問われる厳しい時代となっています。昔のような徒弟制度は無理としても新たなIT技術を駆使したナレッジマネジメントシステムなどにより専門性を深め、行政のプロとして、若い技術者の人材育成と人材開発に組織として取り組んでいく必要があると思っています。昔から比べるとOFF-JTは充実してきたと思いますが、学ぶのに一番良い現場によるOJTが昔ほどやられていないと感じており、私も含め、そのための上司や先輩の役割、責任は非常に大きいと考えております。

これからの行政職員に対して、自立（自分で考え、自分で判断し、自分で行動し、自分で責任をとる）することが強く求められており、そのことをそれぞれが認識し、アイデンティティをもって強い技術者を目指す必要があると考えおります。そのため我々先輩も何を伝えるべきか、何を貴方達にしてやれるか考え、その役割をきちんと果たしていかなければならないと思います。

長くなりましたが、今、時代は皆さんの世代が主役になっております。そのことを強みとし自信をもって、「プロとしての資質や能力の向上」と、「県民を裏切らない、期待に応えていこうという意図を醸成」し、県民から信頼される技術者として、大きな達成感を感じられる仕事ができることを祈念して、筆を置きます。

### 2月の主な 行事予定

#### ● 県民参加・NPO 協働フォーラム

- 期日 2月3日(木)
- 時間 13時～17時
- 場所 盛岡市総合福祉センター
- 担当 県土整備企画室

#### ● 岩手県港湾セミナー

- 期日 2月3日(木)
- 時間 16時30分～19時
- 場所 経団連会館(東京)
- 担当 港湾空港課

#### ● 大船渡港埠頭保安訓練

- 期日 2月4日(金)
- 時間 13時30分～15時
- 場所 茶屋前埠頭
- 担当 大船渡地方振興局土木部

#### ● 大船渡港ポートセミナーin 江刺

- 期日 2月4日(金)
- 時間 15時～18時
- 場所 ホテルニュー江刺
- 担当 水沢地方振興局土木部

#### ● 第4回世界文化遺産登録推進協議会

- 期日 2月10日(木)
- 時間 13時30分～15時
- 場所 県庁12階特別会議室
- 担当 都市計画課

#### ● 花巻空港愛称選定委員会

- 期日 2月10日(木)
- 時間 13時～16時
- 場所 盛岡商工会議所
- 担当 港湾空港課

#### ● 第2回土木合同セミナー

- 期日 2月16日(水)
- 時間 14時～17時
- 場所 岩手県公会堂大ホール
- 担当 盛岡地方振興局土木部

#### ● 汚水処理連携セミナー

- 期日 2月17日(木)
- 時間 15時～17時
- 場所 メトロポリタン New Wing
- 担当 下水環境課

#### ● 第140回岩手県都市計画審議会

- 期日 2月17日(木)
- 時間 15時～16時30分
- 場所 12階講堂
- 担当 都市計画課

#### ● 後川環境再生WS事業報告会

- 期日 2月19日(土)
- 時間 15時～17時
- 場所 花巻市
- 担当 花巻地方振興局土木部

#### ● いわて都市政策研究会(第5回)

- 期日 2月22日(火)
- 時間 13時～17時
- 場所 エスポワールいわて
- 担当 都市計画課

#### ● 東北自動車道社会実験協議会

- 期日 2月23日(水)
- 時間 13時30分～16時
- 場所 エスポワールいわて
- 担当 道路建設課

#### ● 平泉周辺景観シンポジウム

- 期日 2月26日(土)
- 時間 13時30分～15時30分
- 場所 平泉郷土館
- 担当 一関地方振興局土木部

# 県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO などの協働事例を紹介します。

## ～市民に愛される大堰川の河川空間をめざして～

### 1 はじめに

大堰川は花巻市の中心地を流れ一級河川北上川水系豊沢川に注ぐ、延長約 8 km（内指定区間 1. 2 km）、流域面積約 4 km<sup>2</sup>の県管理河川です。

上流域は水田地帯でその用排水路となっており、下流市街地は下水路の形態を呈しており、江戸時代には花巻城のお堀としての役割がありました。

全区間にわたり三面張水路であり、都市河川で家が川岸まで密集し家庭排水が流入してその水質は悪く、河床はぬるぬるして近づく状況にはありませんでした。（平成元年：BOD 40mg/l）

中心市街地のこのような状況のなか、一方周辺では新幹線新花巻駅、JH花巻南インターの開設が相次いだことを契機に、花巻市では昭和 62 年「定住拠点構想」を策定し町づくりに着手。その中で大堰川周辺は水辺の散策路「レインボープロムナード」として位置付け、河川は県が、散策路や植栽は市が整備することとして進められたものです。

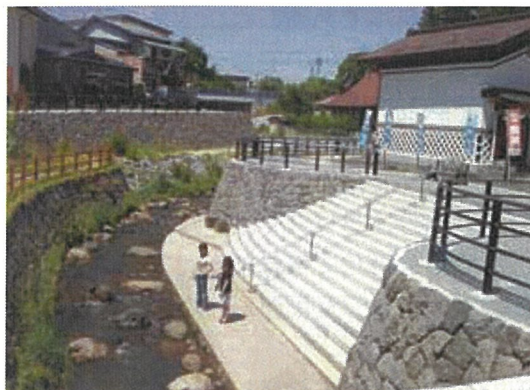


着手前の状況

### 2. 事業の概要

狭窄部を解消するとともに、歴史ある中心市街地に安らぎと潤いを与える水辺空間の創造をめざすことを目的とし、平成 8 年度に着手。河川整備として河川再生事業の認定を受け、統合河川整備事業に引き継ぎ平成 15 年度に完成しました。

花巻市においては別途プロムナード整備事業（事業費 7 億円）として河川周辺の園路舗装、防護柵、植栽、照明等を平成 16 年度まで行うこととしています。なお、計画にあたっては、市民有志による「魅力ある大堰川を考える会」を設立し、地域の意見を取り入れて策定しました。



### 3. 市民とのかかわり

「考える会」による計画策定後においても、工事期間中随時回覧版や商店へのチラシ配布により、工事日より、現場見学会を案内し、懇談会を開催してその意見を現場に反映させるよう工事に努めました。

一例としては、階段護岸への手摺の設置、植栽は背丈の小さいものを、飛石、観光客銘版の移設が挙げられます。

特に銘版においては、以前商店会が主催して観光客の花巻への思いを募集し、鉄板に刻んだ銘版を商店街歩道に布設していたもので、アーケード工事により撤去された経緯がありました。その銘版の評判がよく、「復活」の市民の声により今回大堰川散策路に再現されることとなったものです。

また、イメージアップの一環として、「夢灯り製作教室」を開催しました。土木の主な材料であるセメントとポイド管で夢灯りを製作し、出来たばかりの階段護岸に点灯しました。

材料のみを支給し、製作や飾り付け、点灯準備やらロウソクの負担は参加者が自ら行うこととし、自主参加型のイベントとして企画しました。周辺商店会の婦人部を中心に積極的な参加を得、3 回開催し計約 150 個を製作しました。型枠作りは「切絵」、モルタルの流し込みは「どろんこ遊び」となって、子どもは楽しく、大人は昔なつかしく夢中で作業し、喜ばれたことがこちらとしても嬉しかったです。

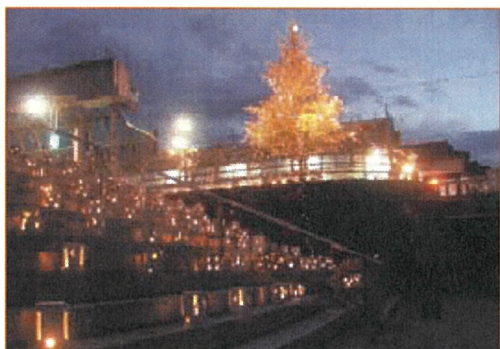


材料がモルタルであることから2～3kgと、通常の石膏にくらべ重いので並べる作業がたいへんでしたが、強風でも倒れず評判がよかったです。無機質であるはずのモルタルですが、製作した人の思いが込められ何とも言えない出来映えになりました。

点灯は秋祭り、クリスマス、バレンタインデーに行い、夢灯りに併せて青年部が周辺にイルミネーション、ライトアップを配置し、商店街が明るくなりました。

工事が終わった後も継続して「夢灯り」が開催されることと確信し、そのきっかけに携わった者としてうれしく思います。

河川という場を市民に提供でき、地域がそれを利用することで愛される河川となり、本来の川になっていくものと感じています。



夢明かりと  
イルミネーション

#### 4. 施工として

従前の三面張水路を打ち破り、透水性を確保する他、施工にあたっては、市街地施工であること、城下町であること、動植物の再生とともに親水性に配慮することとして進めてきました。

護岸は城下町にふさわしく自然石の空石積（アンカータイプ）を主とし、底部には植生ロールを配し水際の回復に努めました。

河床には砂防工事で発生した巨石を配置して変化をもたせました。



↑ 既存護岸の活用



左岸ビオフィルム⇒

階段護岸は極力幅を広くし、親水性、利便性を考慮するとともに、飛石で落差工を形成しました。

橋梁たもとに自生していたケヤキは伐採しないこととし、木柵土留で保護しました。

結果、現在では、やさしくなった川の流れに魚やカモが、石積護岸には植物やトンボ、ヘビまでも戻ってきました。

小学生が学校帰りにここを通り、石垣や飛石、階段で遊んでいる姿が見かけられます。「危ない」と言う婦人の声もありますが、「これでいいのだ」と思います。着工前の状況を考えると、とても信じられない光景です。



けやきの保護策

#### 5. おわりに

大堰川はこれまで、市民から「水路」「下水」としてイメージされてきました。一昔前ですと、「コンクリート三面張がきれい」「下流へ流れればいいのであって、土砂や草はゴミが引かかる原因になって邪魔者扱い」とされ、水質は悪化し生物に縁のない空間となっていました。それがあたりまえでした。

この事業を契機に住民と対話する機会が増え、そのなかで変化する大堰川を見ることにより、市民の意識も変化してきていると感じます。

砂利や草があるからこそ「川」でありそこに生物が生息し、それが水質改善に役立っていることに気づかされたのです。

川だから「近づきたい」と感じるのです。「水路」では近づきたいと感じないのです。今では「川」としてイメージされるようになってきました。

イベントの場として利用されたり、子どもが遊んだりサラリーマンやOLが散策しているのを見ると「川」になってきたなと感じます。

まちづくりはハード・ソフト両面から、そこに集うモノ（者、物）、自然、生命が融合しあいながら潤いのある空間が創造できればと思います。

賢治のイーハトーブ（理想郷）の精神もそんなところにあるのではないのでしょうか。

（花巻地方振興局土木部 志田悟）

# 県民参加・NPO 協働通信

## 住民参加による「福岡地区歩行者安全対策検討会」

### ～試行結果報告(通常期)～

一般県道二戸一戸線 二戸市福岡地区(二戸警察署前～岩谷橋)の約 1.2km 区間は二戸市の中心街であり、車両・歩行者・自転車等、交通量が多く重要な役割を担っている道路です。

しかし、当地区には歩道がなく、道路幅員も最小 7.5m であり、歩行者及び自転車が安心して通行できない状況にあります。

昨年(2014)の 7 月より地域の代表者と警察・県・市で検討会を 4 回開催し、今の道路幅員の中で歩行者等の安全な通行を確保するための対策について話し合ってきました。

昨年の 11 月には計画案に基づき、試行という形で区間・期間を限定して実施し、施行期間中には、アンケート・交通量調査・車の走行速度測定等を実施しました。試行結果の概要は、以下のとおりです。



## 1. 試行の概要

### (1) 試行名称

- ・二戸市福岡地区における歩行者等安全対策のための試行(通常期)

### (2) 試行の目的

- ・歩行者・自転車に対する安全性向上を把握する。
- ・通行車両への交通上の影響を把握する。
- ・他区間への適用を検証する。

### (3) 試行区間

- ・橋場交差点(福せん付近)～岩谷橋手前までの約 500m 区間

### (4) 試行日

- ・試行日 平成 16 年 11 月 16 日(火)～11 月 25 日(木)
- (試行期間: 10 日間)

試行内容表示図



### (5) 試行内容

#### ① 幅員構成の変更等

- ・歩行空間を広げ、その分車道の幅員を狭めた。また、車道をゆるく蛇行させる箇所を設けた。

#### ② 現センターライン、現路側線の消去

- ・現在のセンターラインと路側ラインは、周囲のアスファルトと同系統色(濃グレー)のペイントにより消去した。

#### ③ 現ボールの撤去

- ・現在設置されているボールは、一時的に全て撤去した。

#### ④ 新たな路側線の着色

- ・試行計画平面図に基づき、新たな路側線を白線で引いた。

#### ⑤ 歩行空間の着色

- ・歩行空間については、試行の開始、終了区間、交差点など、部分的に緑色の着色を行った。
- ・着色を行わない区間も、ライン(黄色の破線)により歩行空間となる部分を表示した。



## ⑥ 歩車道境界の設置

- ・試行計画平面図に基づき、ポストコーンを設置した。

## ⑦ 速度規制

- ・速度を 30 km/h とするための臨時規制を行った。
- ・規制区間の終始点には、臨時の規制看板を設置した。

## (6) 試行中の調査内容

### ① 交通量調査

- ・試行前（7/21 実施済み）と試行中の変化を記録し、車両交通量への影響及び周辺道路への回避の影響などを検証した。
- ・調査項目：車種別自動車交通量、歩行者交通量
- ・調査時期：通常期 11 月 18 日（木）7～19 時

### ② アンケート調査

- ・試行内容についての評価及び効果を把握するため行った。

### ③ 車両の走行速度検証

- ・現状と試行時における車両の走行速度を計測し、計画の効果について検証した。

### ④ 渋滞状況の調査

- ・試行により、渋滞が見られるか確認した。

## (7) 実施体制

- ・実施主体：二戸地方振興局、二戸警察署



## 2 試行の結果（抜粋）

### 【通行速度調査結果】

- ・事故の大きな要因の一つである、最高速度を大幅に低下（55 km/h → 44 km/h）することができました。
- ・平均速度は微減（41 km/h → 38 km/h）という結果でした。

- 調査主体：二戸警察署

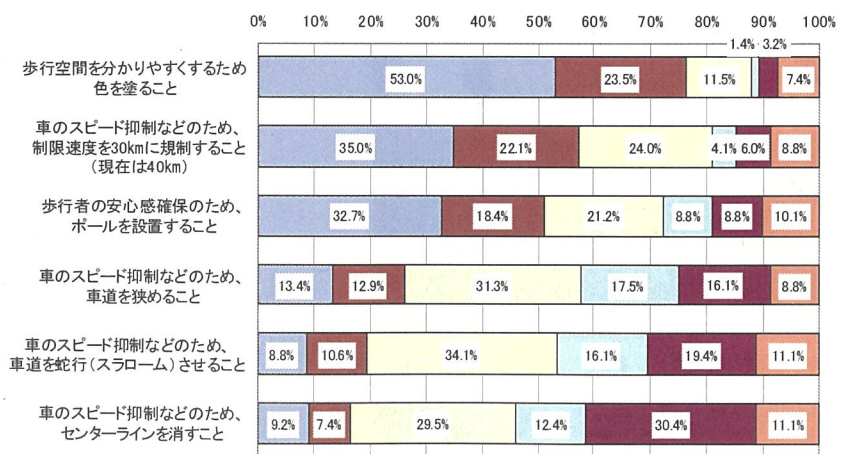
|      | 平常時                                   |           | 試行時                                    |           |
|------|---------------------------------------|-----------|----------------------------------------|-----------|
| 調査日時 | 平成 16 年 11 月 9 日（火）<br>午前 10：30～11：30 |           | 平成 16 年 11 月 25 日（木）<br>午前 10：30～11：30 |           |
| 区分   | 北進車両                                  | 南進車両      | 北進車両                                   | 南進車両      |
| 台数   | 132 台                                 | 121 台     | 146 台                                  | 141 台     |
| 平均速度 | 41.3 km/h                             | 40.3 km/h | 38.6 km/h                              | 37.5 km/h |
| 最高速度 | 59 km/h                               | 52 km/h   | 45 km/h                                | 43 km/h   |

### 市民アンケート結果（回収枚数 217）

### 【アンケート結果】

問「今回の試行内容について、総合的に考えて、あなたはどのようにお考えですか。」

- ・賛同という回答が多かったのは、歩行空間の着色、制限速度の規制、ポールを設置でした。
- ・逆に、反対という回答が多かったのは、スラローム化、センターラインの消去でした。



## 3 最後に

なお、2 月 1 日から 10 日の日程で、前回の試行結果を踏まえ計画案を見直し、降雪期の状況や課題を把握するため、冬期試行を実施します。

また、試行結果を踏まえ 3 月に 5 回目の検討会をおこない、計画決定し、来年度整備する予定です。

県民参加・NPO 協働通信

## 花巻地域懇談会「住民参加・NPO協働を考える」

～事例発表と意見交換～

1月18日（火）、午後1時から花巻地区合同庁舎において、NPO、県・市町職員約40人が参加し、花巻地域懇談会「住民参加・NPO協働を考える～地域づくりと道・川・公園の関わりを考えよう！～」を開催しました。

当日は、土澤 TMO による道路利用の社会実験や NPO 協働による花巻広域公園の利活用推進、グラウンドワークによる後川流域の再生支援といった花巻管内の県民参加の取組み事例が紹介されました。

## 花巻会場の様子① 事例発表の様子 ②



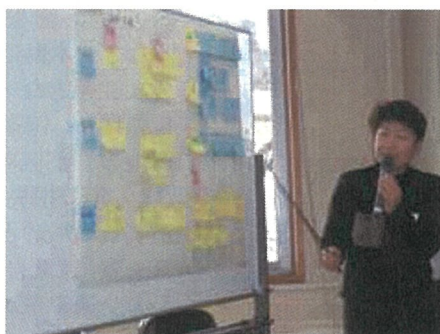
#### ④道路班の検討風景



### ⑤発表の様子



⑥



### ◇ワークショップの概要

道路は誰のもの？公園は誰のもの？河川は誰のもの？

道路・公園・河川などの公共空間を地域づくりの視点から共に考え、課題を抽出しながら、利用者と管理者、近隣住民と行政が協働で取り組むための障害や有効性を明らかにするために、ワークショップを行いました。

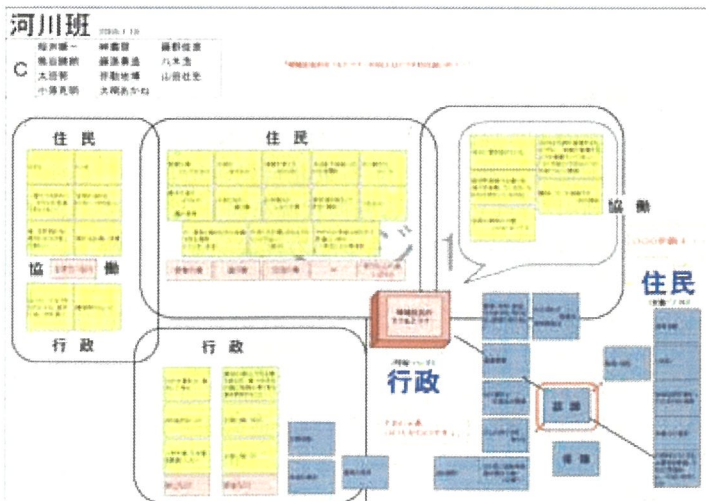
全体のコーディネーターを（特活）いわて NPO センター理事長の高井昭平さんが務め、3つのグループ（A：道路、B：公園、C：河川）に分かれ、課題や解決策について自由な意見交換をおこないました。

※右の図は、河川班がまとめた資料です。

### 事例発表の概要(1事例を紹介します)

|              |                                                                  |
|--------------|------------------------------------------------------------------|
| 地区名          | 東和町土沢地区（県道土沢停車場線）                                                |
| 団体名          | ㈱土澤まちづくり会社                                                       |
| 事業概要         | 整備見通しの立たない都市計画道路における地域主導の社会実験                                    |
| 県民参加の内容（進め方） | 地元ＴＭＯが主体となり、国土交通省の社会実験制度を利用して、商店街活性化のための歩道又は道路空間の活用策を検討し、実証を試みた。 |
| 課題・問題点       | ①道路整備を目指した「遊びの歩道」協議会の継続的な取組み<br>②社会実験を契機とした行政（県、町）とのパートナーシップの構築  |
| 備考           | H15～H16の２ヶ年続けて社会実験を実施。住民主導の希少事例として全国的に認められた。                     |

### ③ワークショップの様子



# 東北自動車道の社会実験を実施しました！

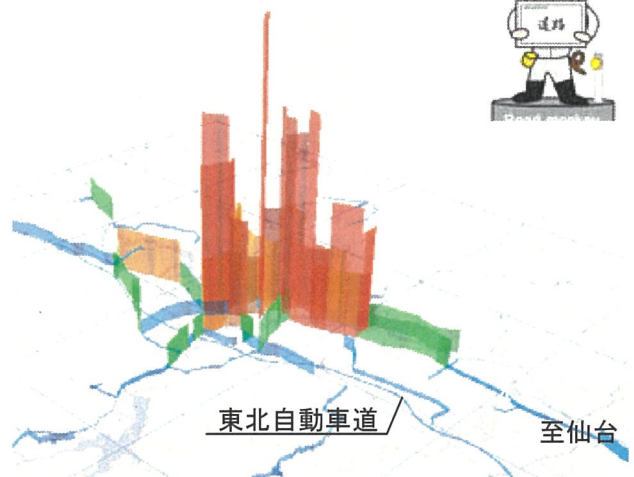
## ～『使える道路』への転換を目指して～

### ■はじめに

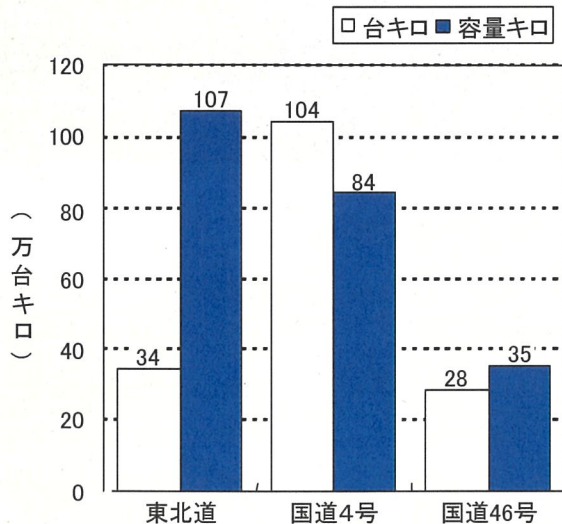
近年、我が国の社会経済活動の進展により、増加した自動車交通に伴う沿道環境や交通渋滞の面での問題が発生しています。

特に交通渋滞は、交通の円滑な流れを阻害し、時間損失を増大させることによる社会経済への影響、排気ガスによる大気汚染、地球温暖化を助長しています。

このような道路交通における課題解決の施策として、平成 16 年度から、一般国道の指定区間において、施設整備と料金施策との間で、有効性、効率性の比較を行うため、多様で弾力的な料金施策に関する社会実験が全国で実施されています。



▲盛岡都市圏の渋滞損失時間



▲東北自動車道と国道4・46号の交通容量

### ■本県の状況

盛岡都市圏における東北自動車道と一般道路の利用状況や一般道路における現状を見た場合、盛岡都市圏には岩手県全体の渋滞ポイントの約 5 割が集中し、渋滞損失時間は約 1,230 万人・時間/年 (渋滞損失額 約 330 億円/年) と県全体の約 4 割を占めるなど、本県にとって、盛岡都市圏の渋滞緩和は重要な課題となっています。

特に、国道 4 号、46 号においては、盛岡中心市街地の一部区間で旅行速度が低下し、70 万人時間/km・年の損失を超える区間も存在するなど、渋滞が著しいものとなっています。

一方、東北自動車道は、日交通量が 2 万台程度と、その交通容量から見れば、十分に活用されていない状況にあります。

### ■そこで「社会実験」！

このような状況から、今回、交通混雑の著しい一般国道 4 号等に並行する東北自動車道において料金割引を行い、交通の転換状況を検証し、今後の課題解決策に反映させるため社会実験を実施しました。

社会実験実施にあたっては、学識経験者の協力を得ながら、関係機関等が広く連携する必要があることから、実施主体となる「岩手県東北自動車道社会実験協議会」を設立し、実験を進めました。



▲国道4号茶畑交差点の渋滞状況

●実施主体：岩手県東北自動車道社会実験協議会

□委員長：元田良孝（岩手県立大学総合政策学部教授）

□構成団体：岩手大学、盛岡商工会議所、(社)岩手県バス協会、(社)岩手県トラック協会、岩手県警察本部、日本道路公団東北支社、国土交通省東北地方整備局、岩手県、盛岡市、滝沢村

□協議会の目的：一般道路の渋滞緩和のため、有料道路の料金を割り引くことにより一般道路からの交通転換を促すとともに、実験方法等の検討や効果・影響を調査すること。

●実験期間：平成 16 年 10 月 18 日(月)～12 月 17 日(金)

□【期間前半（約 3 割引）】10 月 18 日(月)～11 月 14 日(日)【28 日間】

□【期間後半（約 5 割引）】11 月 15 日(月)～12 月 17 日(金)【33 日間】

●対象区間：滝沢 I C～盛岡南 I C

●対象車種：全車種（ETC 含む）

●調査・分析

□交通流動の変化 □渋滞の改善状況 □騒音の削減効果 □実験の評価（アンケート調査）

●ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/seikatu/kousoku/jikken/index.htm>

■実験結果

国道 4 号等の一般道路の調査結果は、現在、国土交通省において検証中ですが、東北自動車道の交通量のデータを入手しましたので、お知らせします。

難しい計算はここではしません（私にはできません）が、右のグラフをなんとなく眺めると、料金を割り引いても損失を出すことなくペイしているように感じるのは私だけでしょうか？

今回の実験の目的が、「盛岡都市圏中心部の国道 4 号等の一般道の渋滞緩和と沿道環境の改善」と「交通容量に余裕のある東北道の有効活用」なので、一般道における効果がどの程度現れるかによると思いますが、料金割引によって目的のひとつである「既存ストックの有効活用」がこれだけ図られるのであれば、実験で終わるのではなく実現する可能性もあり得ると個人的に考えています。

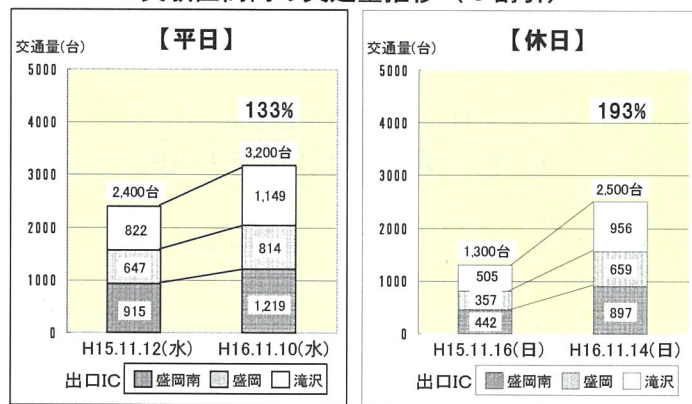
今回の実験結果をもとに、料金割引の導入を検討することとされているので、今年度開催予定の第 3 回協議会での調査結果の発表を楽しみにしています。

■おわりに

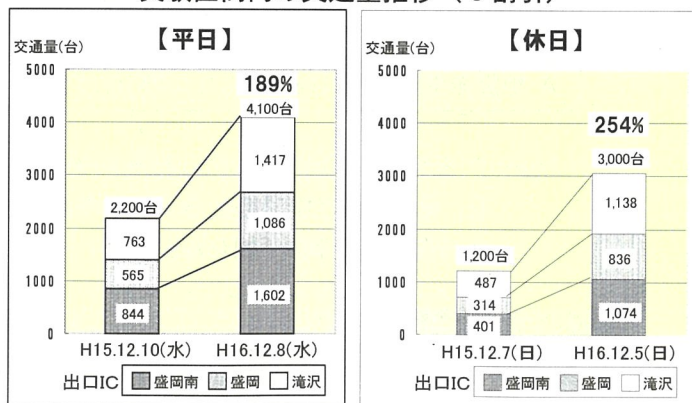
日本の高速道路は「I C 間が長くて使いにくい」とか、「どうしても割高感が拭えない」という皆さんが持っている感覚を私も持っています。

しかし、今回、本県の東北自動車道で実施された料金割引の社会実験の他にも、有料道路における社

実験区間内の交通量推移（3 割引）



実験区間内の交通量推移（5 割引）



会実験として、スマート I C の社会実験も全国で実施されており（平成 16 年度は実験候補箇所として 35 箇所が登録されました）、これらの実験の効果が実証され、「使える道路」への転換が図られることを大いに期待しています。

（文責 ■ 道路建設課 石川）

「地域の安全安心促進基本計画(津波)策定」  
～ハードとソフトが一体となった施策の推進 田老町での取り組み事例～



—河川課河川海岸担当—

## 1. 津波に関する背景

三陸沿岸は津波の常襲地帯であり、過去に幾度となく津波による大規模な被害を受けております。



昭和 8 年三陸津波 発生前



発生後

(家屋は押し流され、大量の砂が堆積しています)

突然ですが、この数字をご存知ですか？

Q: 津波に関する数字「**2035**」と「**99**」 (「**2035**」は「**30**」と読み替えて可です)

A: 今後発生が想定されている宮城県沖地震、「**2035**」年まで(今後「**30**」年以内)に発生する確率は「**99**」%とされています。

Memo: 地震津波はいつ発生するか分かりませんので、当然確率どおりに発生するわけではないのですが、「**99**」%という数字、地震津波発生が逼迫していることが感じ取れます。

Q: H15.5.26 発生 宮城県沖地震に関する数字「**28**」

←少し難易度が高いかもしれません。

A: 地震発生時、迅速な避難をした人の割合、「**28**」%(大船渡市の例: 東大社会情報研究所調べ)

Memo: 三陸沿岸は過去に甚大な被害を受けている、いつ地震津波が発生してもおかしくない状況、そのような中で震度 6 弱の地震が発生。

津波防災の基本は「**揺れたら避難!**」なのですが、実際はなかなか難しいようです。

## 2. 従来の津波対策

我々海岸管理者は、津波対策として防潮堤水門・陸閘などの海岸保全施設の整備を進めてきました。

ちなみに本県の海岸保全施設整備率は**69.6%**です。(H16.3 月現在)



(写真)田老海岸整備状況 T.P.+10.0m

### 3. 今後の津波対策

従来の津波対策（ハード整備）の課題として、

- ・ 施設整備には「長期間」を要する（言い換えれば、効果発現まで時間がかかる）
- ・ 今後発生する地震津波について、時期・規模は誰にも分からないことから、整備済みの防潮堤を越波することもあり得る。

そこで、これからの津波対策としては、地域住民、海岸利用者に対して“**迅速な避難**”を意識してもらう必要がある、つまり、**従来の「ハード整備」+「ソフト対策」の融合**が必要となります。

### 4. 今後の津波対策（取り組み事例の紹介）

ハードとソフト一体となった施策の推進を狙い、田老町において「安全安心促進基本計画（津波）」策定を行いました。

計画策定を進める中で、地域住民参加によるワークショップを開催し、図上訓練、現地確認を行いました。以下に簡単な流れを記します。



#### ①図上訓練状況

- ・ 水門、陸閘、避難場所を記載した白図を準備。
- ・ 事務局が設定した被害条件のもと、避難行動を想定。（今回は S8 三陸津波をベースに「冬」「夜」に発生としました。）
- ・ 健常者、避難の際に補助を必要とする人、水門閉鎖作業後避難する人、など条件は多岐に渡ります。



#### ②現地確認状況

- ・ 図上訓練の成果を、実際に現地を歩いて確認します。



#### ③成果発表

- ・ ①、②の検討結果をとりまとめ、発表してもらいました。  
“ 防潮堤乗り越し階段が急、狭い、使いづらい ”  
“ 指定されている避難場所より、こっちの方が近いし安全！ ”  
など、「ハード」「ソフト」両面について意見をいただきました。

本計画書には、図上訓練を通じて把握した「地域が必要としていること」に対して、「具体的な対応方針」を記載しました。キーワードは“**だれが、いつまでに、どのようにして**”

（詳細については、河川課 HP をご覧下さい。 <http://www.pref.iwate.jp/~hp0605/index.html>）

また、参加者の皆さんは、地震津波発生時における避難行動を具体的にイメージしたことにより、“**迅速な避難**”の重要性を再認識できたと思います。

### 5. おわりに

今年度は種市町において計画策定を進めております。（今回は久慈地方振興局、町役場が主体となって計画策定を進めております。）

今後は他沿岸市町村においても計画策定を進めていく予定としておりますので、その際にご協力をお願いいたします。

# 美しい地域づくりを目指して

～第4回 雫石町橋場地区～

盛岡地方振興局土木部



私達は共に行動し支援します  
私達は岩手山麓・八幡平周辺重点地域周辺の美しい地域づくりに住民の方々と共に行動し支援しています。  
今回は雫石町橋場地区のらしさ探しと活動状況について紹介します。



心休まる ギャラリーのある  
蔵のコーヒー店



雫石七ツ森の山百合群生地



思い出の詰  
まった校門  
大山祇神、兜明神、鎧明神を  
祀っている橋場部落の氏神三柱神社



御明神の  
屋敷林



高前田の  
屋敷林



赤湊沿道  
の杉林



歴史を語る  
橋場の旧道



木立の中  
のそば屋



舟原の渓流と草花と吊橋、石碑が見守る



舟原の田園風景



坂本の沿道筋の店

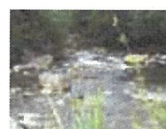


杉木立の中のお社



橋場から望む  
駒ヶ岳

宿場町橋場の  
街並み



安栖沢渓流  
と草花



歴史を感じさせる  
旧秋田街道



宿場の面影が残る橋場の街並み



橋場の建物群



街中のお寺界限



多賀神社の老杉と竜と獅子



雫石中町の  
街並み

駅前風景  
石材店



小雨の雫石川



出湯あふれる里  
鶯宿温泉

### ○ 橋場地区の歴史

雫石町を東西に横断する国道 46 号はかつて秋田街道と呼ばれ盛岡城下と秋田を結ぶ重要な往来であり、寛永年間からは幕府の巡見使や御馬役人など貴賓の通行路として奥州街道に準じ扱われていたとのこと

です。  
その街道筋の橋場地区は現在 27 世帯の小さい集落ですが、三百年前には南部藩と佐竹藩の往来の要であり交通監視のために橋場御番所（関所）が設けられていました。今は新竜川橋のたもとに「橋場関所遺址」の碑がひっそりと佇むのみですが藩境である国見峠、仙岩峠の藩境碑及びこれに至る坂本川沿いの旧道は現在でも「旧街道」の趣を残しており、歴史ロマンを求めて訪れる人も多いと聞きます。

### ○ 橋場地区の景観づくり

橋場地区には巡見使令や御馬買衆などの宿泊のための「御坂屋」が九郎兵衛をはじめ三軒あり、そのほかに休憩所として坂本に御茶屋が六件あって大変賑わっていたそうです。橋場は土地柄から大水害に遭ったり度々の大火で集落が焼けたりしましたが、かつては街道沿いには樹木がたくさんあり風情があった事と思われます。

そこで橋場地区の皆さんは古風な佇まいの民家が点在する中、春は桜並木、夏はモミジの新緑、秋は紅葉となる樹木を植栽し、沿道には草花を植えて潤いと安らぎのある町並みの形成に取り組もうとしています。この事によって建物などにも地域の皆さんにそれなりの配慮が必要との認識が出てくることが期待されます。

また、道の駅「雫石あねっこ」開業でたくさんの人が橋場訪れています。将来的にはかつての宿場町のように沿道に、昔の屋号で「五平茶や」とか「くろべえいだんごや」とか小さな店が出来る地域の風情を出したまちづくりを目指しています。

### ○ 景観に関する取り組み

建築士会雫石分会の皆さんは地域の景観形成に関し次のように勉強会を開催するなど取り組んできています。そうした中で橋場に住む会員の坂本利喜夫さん（景観形成推進協議会委員）は地区の方々に声をかけ、目標は景観形成住民協定締結に向けリーダーとして取り組んでいます。

#### (1) 景観に関する勉強会(平成 15 年 6 月 27 日開催)

内 容：みんなで考えよう美しい景観  
(盛岡地方振興局土木部 建築指導課)

#### (2) 景観・まちづくり塾(平成 16 年 7 月 2 日開催)

内 容：景観とまちづくり  
(盛岡地方振興局土木部 鍋倉次長)

#### (3) 地域のらしさ探し(平成 16 年 7 月 16 日実施)

内 容：地域景観、街並みから学び調和した美しいまちづくりのための「らしさ探し」



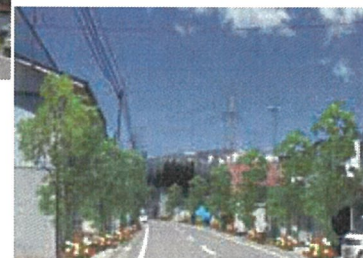
### ○ 景観形成住民協定締結に向けて

建築士会雫石分会の地域景観づくりの取組みの中で橋場地区で具体的な活動が始まりました。2 月には NPO 法人も設立されるとのことから振興局においても今年度同様、地元のみなさんと共に活動し、支援をして行きたいと考えております。



樹木と草花のうろおいある

街並形成シミュレーション



# 「岩手県除雪システム」運用開始！

## 1 はじめに

岩手県道路情報提供サービス (<http://www.douro.com>) では、峠の画像 (67箇所) を提供しておりますが、今年度、新たに各観測箇所 (128箇所) の午前8時段階の雪情報 (降雪・積雪・路面状態・天候等) を提供することになりました。これは、今年度から運用しており1月末までのアクセス件数は約25,000件ほどとなっております。



### ◇アクセス方法

1. 道路情報提供サービスへアクセスします。
2. 雪情報をクリックします。
3. 本日の情報または過去の情報を選択してクリックします。
4. 指定した日の県内の雪情報表示されます。  
(午前8時現在)



## 2 岩手県除雪システムとは

岩手県除雪システムは

- ①. 除雪作業の迅速かつ的確な対応
- ②. 道路利用者へのサービスの向上

を目的として今年度12月から運用をスタートいたしました。

これは、インターネットを活用して道路管理者が雪情報 (路面状態等・機械稼働状況) を把握して迅速且つ的確な除雪を可能とし効率性の向上を図るものであり、併せて道路利用者に対してさらにきめの細かい雪情報を提供するものです。

今後はリアルタイムでの降雪状況を把握するため積雪センサーによる自動計測するシステムを検討していきたいと考えております。



# 県管理道路の開通情報

平成16年度の主な開通箇所は、次のとおりです。

## 1 主要地方道

- 主要地方道栗駒衣川線『天土工区』（衣川村）  
【平成16年12月21日】

## 2 一般県道

- 一般県道藤沢大籠線『大籠工区』（藤沢町）  
【平成16年12月19日】
- 一般県道沖田田原線『丑石橋』（大東町）  
【平成16年12月19日】
- 一般県道東山薄衣線『門崎橋』（川崎村）  
【平成16年12月20日】



### 主要地方道栗駒衣川線 天土（あまつち）工区 【平成16年12月21日 開通】

主要地方道栗駒衣川線は、衣川村と宮城県栗駒町を結ぶ延長約2.4kmの道路です。

衣川村天土地内の旧ルートは道幅が狭いうえ急カーブであり見通しが悪いので、南側を迂回するバイパスルートを設定し、平成13年度から事業に着手していました。

当工区の完成により、歩行者及び自動車交通の安全が確保されました。

「天土工区」は衣川村下河内（しもかわうち）から同長囊（ながふくろ）に至る延長1.265km。幅員は11.5m（うち車道6.0m）で片側に2.5mの歩道を設置しています。



### 一般県道藤沢大籠線 大籠（おおかご）工区 【平成16年12月19日 開通】

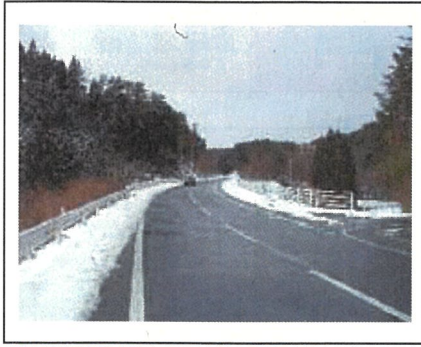
一般県道藤沢大籠線は、藤沢町藤沢と同町大籠を結ぶ延長約1.2kmの生活道路です。

旧ルートは、道幅が狭いうえカーブが連続する難所であったため、当該箇所の南側を迂回するバイパスルートを設定し、平成9年度から事業に着手していました。

当工区の完成により、歩行者の安全が確保されるとともに、自動車交通の円滑な通行が可能となりました。

「大籠工区」は藤沢町大籠地内の延長796m。幅員は11.5m（うち車道6.0m）で片側に2.5mの歩道を設置しています。





**一般県道沖田田原線 丑石橋（うしいしばし）**  
**【平成16年12月19日 開通】**

一般県道沖田田原線は、大東町沖田と江刺市田原を結ぶ延長約2.1kmの生活道路です。

旧ルートは、通学にも利用されていましたが、道幅が狭く歩道も未整備であったため、当該箇所の西側を迂回するバイパスルートを設定し、平成15年度から事業に着手していました。

当工区の完成により、歩行者の安全が確保されるとともに、自動車交通の円滑な通行が可能となりました。

「丑石橋」を含む整備区間は大東町鳥海地内の延長500m。幅員は7.5mで片側に2.2mの歩道を設置しています。

なお、この事業は「権限・財源・人」をセットで大東町に移譲し、町が事業を進めるという全国初の試みで実施されたものです。



**一般県道東山薄衣線 門崎橋（かんざきばし）**  
**【平成16年12月20日 開通】**

一般県道東山薄衣線は、東山町松川と川崎村薄衣を結ぶ生活路線です。当該箇所は北上川及び砂鉄川の増水により年間3日から一週間程度通行止となる冠水の常襲区間です。

本事業は国土交通省による一級河川砂鉄川床上浸水対策特別緊急事業（平成11年度～15年度）と調整を図りながら門崎橋の架替及び道路の付替を実施するもので、国土交通省と岩手県との費用負担により国土交通省が実施するものです。

門崎橋は延長184m、幅員は11m（うち車道6m）で片側に2.5mの歩道を設置しています。



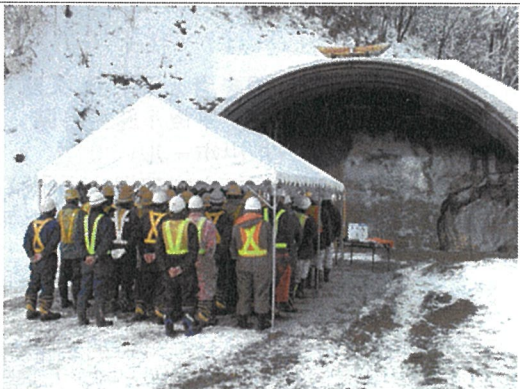


## 水沢駅前でユニバーサルデザインまちづくりワークショップを開催

1月21日(金)

平成17年1月21日に水沢市老人クラブ連合会、アクセシブル江刺、アクセシブル北上、障害者生活支援プラザ、水沢市社会福祉協議会、水沢市福祉事務所、水沢商工会議所、水沢地方振興局保健福祉環境部、土木部から約20名の参加のもとユニバーサルデザインまちづくりワークショップを開催しました。

土木部としてのテーマは「冬期バリアフリー」であり、冬期間特有のバリアである「雪」による障害を現地点検しながら確認し、問題点と改善策について討議しました。



## 築川4号トンネル築造工事の安全祈願

1月21日(金)

平成17年1月21日午前11時から築川ダム建設付替国道106号築川4号トンネル築造工事の安全祈願祭が執り行われました。

築川ダム建設に伴う付替国道・県道で最後となる5本目のトンネルに着手いたしました。順調に掘進すれば平成17年5月には貫通し平成17年度中には完成する予定です。

このトンネルは、中間沢部に土被りががないためソイルセメントで盛土したうえでトンネル掘削する工法を採用しています。築川ダム関連で県道トンネルを施工中のため工事用電源を東北電力を利用すると電圧低下をきたすとの申し入れのため発電発電機による施工方法を採用しています。



## 築川ダム建設事務所に地域から感謝状が贈呈

1月23日(日)

平成17年1月23日(日) 根田茂地区コミュニティセンターで築川ダム建設事務所に地域(盛岡東部地域づくり推進協議会、根田茂心会和、砂子沢自治振興会)から、感謝状が贈呈されました。

当事務所では、事業着手以来地域の行事にも積極的に参加するなどして、地域の方々と連携を図りながら事業を進めております。

また、安全(工事用車両の通行に当たっては一般車両の優先、安全速度の遵守等)と環境(稀少動植物の保護、道路の汚れ防止対策の徹底など)に配慮しながら工事を進めております。これらのことが評価され、今回の感謝状の贈呈になったものです。



## 二戸市福岡地区「歩行者等安全対策」の取り組みがIBCで放送!

1月27日(木)

1月27日(木)のIBCテレビ『ニュースエコー』の中で福岡地区「歩行者等安全対策」についての取り組みが紹介されました。

同地区では、昨年の7月より地域の代表者と警察・県・市で検討会を4回開催し、今の道路幅員の中で歩行者等の安全な通行を確保するための対策について話し合ってきました。

今回の「歩行者等安全対策」事業は、昨年実施したアンケートや交通量調査・車の走行速度測定等による試行結果を踏まえ、計画案を見直し、降雪期の状況や課題を把握するために冬期に試行するもの。

今回の試行結果を踏まえ、3月に5回目の検討会をおこない、計画決定し、来年度整備する予定です。

# Information

## 開催等 のお知らせ

1



### ●「県民参加・NPO 協働フォーラム」を開催します！

県土整備部では、この度、初めて、「県民参加・NPO 協働フォーラム」を下記のとおり開催いたします。

このフォーラムは、平成16年3月に策定した「県民参加の推進プログラム」に基づき、昨年12月から今年の1月にかけて県内4箇所で開催した地域懇談会を受けて開催するものです。

当日は、日本で最初の NPO 支援組織 NPO サポートセンターを設立し、NPO の第一人者である山岸秀雄さんによる基調講演『「協働」で創る新しい公共』のほか、県民参加による取組事例発表、パネルディスカッションを予定しております。

県土整備部では、県民参加推進プログラムを基本として、それぞれの地域に合った取組みとなるように工夫しながら、県民参加を実践していきます。

#### 記

- 日 時 平成17年2月3日（木）  
13時10分～17時00分
- 場 所 盛岡市総合福祉センター4F 講堂  
（盛岡市若園町2-2）

#### ●内 容

- ① 基調講演 「協働」で創る新しい公共  
NPOサポートセンター理事長 山岸秀雄氏

#### ②県民参加の事例発表

盛岡地区 紫波町日詰地区 暮らしのみちゾーン  
花巻地区 後川地域のグランドワークによる環境再生

宮古地区 未来の山口川を創る取組み

二戸地区 雪谷川の住民協働の取組み

#### ③パネルディスカッション

- 申込・問合せ先 県庁県土整備企画室  
電話 019-629-5846



#### フォーラムの会場

駐車場はありませんので公共交通機関等をご利用願います。

## 開催等 のお知らせ

2



### ●「地域の景観を考えるフォーラム」を開催します！

都市計画課まちづくり担当では、今年度県内5地区で実施した「地域の景観点検」活動の報告を軸に、昨年12月23日（木）に、盛岡市のエスポワールいわてにおいて、フォーラム「地域の景観を考える」を開催いたしました。建築家安藤忠雄氏の特別講演もあり、多数のご来場をいただきました。

そこで、今回、水沢市及び久慈市におきまして、も次のとおりフォーラムを開催します。

皆さんのご参加をお待ちしています。

#### フォーラム「地域の景観を考える」in 水沢

日時 2月8日（火）午後1時～5時

会場 胆江地区教育文化センター

内容 ・基調講演：弘前大学教授 北原啓司氏  
・「地域の景観点検」実践の報告：点検

実施5団体

#### フォーラム「地域の景観を考える」in 久慈

日時 2月21日（月）午後1時～5時

会場 アンバーホール小ホール

内容 ・基調講演：宮城大学教授 山田晴義氏  
・「地域の景観点検」実践の報告：点検実施4団体  
・パネルディスカッション

いわての美しい景観は、県民共有の財産です。

これらを、守り、より美しくしていくためには、県民のみなさん自らが地域の景観の状況を認識し、景観づくりにつなげることが重要です。

「地域の景観点検」は、この素晴らしい財産の状態や、財産を損なっているものを再確認し、より美しい景観をつくっていく手がかりとするため、地域の皆さんの目で、優れた景観、見苦しい景観を点検するものです。

今年度は、大迫町、北上市、江刺市、盛岡市、花巻市の5箇所で、県の委託の形で地域の景観点検を実施しました。

今般のフォーラムは、これらの点検活動の報告を柱に、身近な景観について、もう一度考えてみようという試みです。



# みんなの声

## 1 opinion/idea/proposal/recommendation

新潟で起きた地震で信濃川にある発電用ダムと堤防に多数の亀裂が入ったという情報がある。盛岡市は、四十四田ダム、綱取ダム、御所ダム等によって水害から守られているという主張があるが、守られているということは逆に決壊した場合は大災害を起こすということでもある。火山砂防のハザードマップと同様、ダム決壊の為に防災マップを作成してはどうか。また、ダムが大量の雨で洪水調節機能を失ったときも下流域の都市計画にこの研究成果が反映されていれば災害を軽減できると思う。

2004/11/1/不明/電子メール

国土交通省や岩手県が管理している洪水防御を主目的としたダムでは、地震に対しても堤体の安全性を確保するために、河川管理施設等構造令で耐震設計を行うことが定められており、1920年代以降、この方法で設計されたダムにおいて、地震により安全に支障をきたすような災害については、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）や今回の新潟中越地震においても事例がないと報告されており、地震に対する安全性は十分に確保されていると考えています。

このため、洪水の危険を住民に周知する目的で配布されている洪水ハザードマップにおいては、ダムの決壊までを想定する必要性は薄いと判断しており、そのようなケースを想定した事例も全国的にない聞いています。

一方、今年の新潟豪雨や福井豪雨をはじめとして、河川の治水対策の計画規模を凌ぐ洪水が発生しています。これらの超過洪水対策としては、これまでの施設による治水手法のほか、ソフト対策などの多様な手段を組み合わせることで水害を軽減することが考えられています。具体的な超過洪水対策は、洪水ハザードマップの氾濫想定ケースを含め、今後の重要な検討課題と捉えています。

## 2 opinion/idea/proposal/recommendation

車に据え付けている精密機械や積載物に悪影響があるので、路面の積雪によるわだちが平らになるように除雪してほしい。

2004/11/24/不明/電子メール

轍（わだち）や凹凸（おうとつ）等が著しくなった場合には、極力早急に路面の整正を行っていますが、路面状況の異常等を確認された場合には、情報提供いただきますようお願いいたします。

## 2 opinion/idea/proposal/recommendation

日比谷公園の樹木を観察していたところ、各都道府県の県木が並べて植栽している区域があり、岩手県「南部アカマツ」のプレートが設置され、2～3mほどのアカマツが植栽されているが、故郷岩手のアカマツは、ザイセンチュウとおぼしき被害を受け、枯れかかった状態となっている。

日比谷公園は、様々な行事が行われており、自然・公園関係者等の目に付くことが多い場所でもある。「岩手」の名折れともなりかねないので、植え替えはできないか。

2004/11/04/不明/電子メール

日比谷公園内のナンブアカマツは、昭和59年に東京都で開催された第2回全国都市緑化フェアの際に県が寄贈したもので、現在は公園管理者である東京都が管理を行なっています。

これまでに4回程植え直しを行ない、現在枯れかかっているマツは平成12年に植え直しをしたものです。県としては、公園管理者である東京都と相談して適切な時期に植え替えを行いたいと考えています。

## 3 opinion/idea/proposal/recommendation

中小企業をいじめて大手ゼネコンを助けるようなことはやめてほしい。労働者の賃金を数回引き下げても、中小企業は会社を維持していくのが困難な状況である。

2004/11/07/不明/電子メール

経営力強化に積極的に取り組む県内建設業に対しては、平成15年度から「建設業いきいきステップアッププロジェクト」において、重点的に支援しています。

特に、公共事業に過度に依存することがないよう、経営基盤の強化に努めることとしており、具体的には、新分野・新市場進出や新技術・新工法の開発に取り組む企業に対し、個別、重点的に様々な支援を行うこととしています。

建設投資の減少など、建設業を取り巻く環境が厳しい状況にあることから、今後も県内中小建設業の支援に努めていきます。

